

	平成24年度		平成25年度(予定)		備考(今後の取組等)
	4月～9月	10月～3月	4月～9月	10月～3月	
委員会の主な取組					
委員会の運営	・委員会(5/23) ・幹事会(8/28)	・幹事会(2/27)	・委員会(5/23) ・幹事会(8月)	・幹事会(2月)	
セミナー等の開催	・リオ+20 サイドイベント(6/18ブラジル) ・地域セミナー(9/29名古屋)	・全国ミーティング(11/3横浜) ・地域セミナー(11/17福岡、12/15倉敷、2/24浜松)	・国際生物多様性の日シンポジウム(5/22) ・地域セミナー(7/15熊本、8/10富山)	・全国ミーティング(11/10豊岡) ・地域セミナー(2月愛媛)	
その他広報等	・生物多様性キャラクター応援団旗揚げ(9月) ・連携事業の認定(9月)	・推薦ツール(子供向け図書)の選定(3月) ・連携事業の認定(3月)	・Iki・Tomoパートナーズ旗揚げ ・連携事業の認定(9月)	・推薦ツール(映像・音楽等)の選定(3月) ・連携事業の認定(3月)	
関係団体の主な取組					
一般社団法人 日本経済団体連合会	企業とNGO交流会(5月)、民間参画パートナーシップ事業者アンケート(8月)	グローバルプラットフォーム第2回会合(10月)、パートナーシップ全員会合、アドバイザーボード(12月)	シンポジウム(5月)、民間参画パートナーシップ事業者アンケート(7月)	グローバルプラットフォーム第3回会合、パートナーシップ第3回全員会合、アドバイザーボード	東北復興支援事業推進、会員・NGO等交流推進、COP12参画
公益社団法人 経済同友会					
日本商工会議所	・eco検定試験(7/21) ・容器包装リサイクル制度 商工会議所担当者研修会(9/26-27、9/27-28)	・容器包装リサイクル制度商工会議所担当者研 修会(10/1-2) ・eco検定試験(12/15)	・eco検定試験(7/21) ・容器包装リサイクル制度 商工会議所担当者研修会(9月)	・eco検定試験(12/15)	
公益社団法人 日本青年会議所					
社団法人 大日本水産会	・持続的漁業認証:大型さんま、小型・サケ定置・ト レードショー・販売、制度説明会	・漁業認証:しらす船びき網、あぶらつものさめ延縄・ きびなごまき網・トレードショー・生物多様性催し	漁業者へ働きかけ・認証水産物販売・消費者普及・ トレードショー・海外普及検討、生物多様性催し他	漁業者へ働きかけ・認証水産物販売・消費者普及・ トレードショー・海外普及検討、生物多様性催し他	
全国漁業協同組合連合会	・漁業者による自主的な資源管理・漁場保全(通年)		・漁業者による自主的な資源管理・漁場保全(通年) ・植樹活動(5/17熊本県阿蘇村)		
社団法人 日本林業協会	・里山林再生の調査研究会第2回、第3回、第4回	・里山林再生の調査研究会第5回、第6回 ・公開講座「森林除染」(11/28)	・里山林再生の調査研究会第7回、第8回	・里山林再生の調査研究会第9回、第10回	
全国森林組合連合会	・森林施業プランナー認定制度キックオフミーティング(8/21 東京)	・国際協同組合年記念大会(10/25東京)	・森林組合トップセミナー(8/1-2東京)	・認定森林施業プランナーを対象としたワークショップ(未定)	
全国農業協同組合中央会(JA全中)		・環境保全型農業推進コンクール		・環境保全型農業推進コンクール	
全国農業協同組合連合会(JA全農)	・「田んぼの生きもの調査」(全国各地・通年)		・「田んぼの生きもの調査」(全国各地・通年)		
一般社団法人 日本新聞協会					
一般社団法人 日本民間放送連盟					
国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)	・COP11準備会合でのサイドイベント(5/9) ・IUCN世界自然保護会議(9月)パネル展示と発表	・COP11、CEPAフェアでのサイドイベント(10/10) ・生物多様性四国会議in高知(12/15)	・丸の内さえずり館展示とセミナー(5/8-6/27) ・生物多様性四国会議in香川	・COP12準備会合参加 ・年次大会@大阪(2/15-17)	
公益社団法人 日本植物園協会	・植物多様性保全拠点ネットワーク事業(通年) ・第8回植物園シンポジウム		・植物多様性保全拠点ネットワーク事業(通年) ・絶滅危惧植物種SOSマークによる広報活動(通年)		
公益社団法人 日本動物園水族館協会					
公益財団法人 日本博物館協会					
国連生物多様性の10年市民ネットワーク					
一般社団法人 CEPAジャパン	・リオ+20 理事派遣・生物多様性に関する「石川 宣言」をアピール	・COP11のCEPAフェアでサイドイベント開催・MY行 動宣言5つのアクションのリーフレット配布	・「いきものぐらし」ポータルサイトの活性化・「東北 グリーン復興プロジェクト」を東北大学と運営	・SBSTAへ理事派遣、愛知ターゲット目標1等に関 する事例発表・収集等、条約事務局との共有等	
生物多様性わかものネットワーク	・生物多様性わかもの会議(8/9~11) ・世界自然 保護会議(9月)	・COP11コース派遣(10月) ・国際会議報告会 (12/3) ・生物多様性出前講演(12.2,3月)	・SBSTTA準備講演会(6月)、生物多様性わかもの 会議(8月)	・SBSTTAコース派遣	
一般財団法人 自然公園財団	・自然ふれあい行事(通年)	・野生動物写真コンテスト	・自然ふれあい行事(通年)	・野生動物写真コンテスト	
SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク(仮称 設立予定)	・設立の提案(5/23) ・立ち上げの検討	・設立準備会合の開催(3/25 石川県)	・参加の呼びかけ(7月~) ・設立総会(秋頃)		
公益財団法人 日本自然保護協会(NACS-J)	・自然観察指導員講習会(5月~全国12カ所) ・自然しらべ「貝がらさがし！」(6月~1833人)	・東日本海岸調査(通年・141カ所)報告会(3カ所) ・生物多様性地域戦略シンポ(3/10横浜)	・自然観察指導員講習会(5月~全国14カ所) ・自然しらべ「日本のカメさがし！」(5~10月)	・生物多様性地域戦略事例発表シンポ(1月) ・市民調査講習会/自然保護セミナー(約20回)	・東日本海岸調査(継続) ほか各地で保全協働活動
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	・生物多様性の日シンポジウム(5/22国連大学)	・UNDB-J地域セミナー各EPOへの協力依頼	・生物多様性の日シンポジウム(5/22国連大学) ・「未来へつなぐ、里山・里海」展(5/15~6/29)	・UNDB-J地域セミナー各EPOへの協力依頼 ・子供向け推薦図書の展示・紹介(通年・GEOC)	
生物多様性自治体ネットワーク		・総会(11月) ・生物多様性ミニフォーラム(11月)	・「国際生物多様性の日」広報(5/18-6/30) ・幹事会(8月) ・テーブルセミナー(8月)	・総会(11月) ・生物多様性ミニフォーラム(11月)	
関係省庁の主な取組					
外務省		・名古屋議定書非公式会合(3/25-26東京)			
文部科学省	・社会教育による地域の教育力強化プロジェクト(通 年) ・環境教育の実践普及(通年)		・公民館等を中心とした社会教育活性化支援プロ グラム(通年) ・環境教育の実践普及(通年)		
農林水産省	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施 ・世界農業遺産国際会議(5/29-31石川)	・生物多様性を重視した農林水産施策の実施	
経済産業省	・微生物遺伝資源の提供(通年) ・遺伝資源に円滑にアクセスできる環境整備事業		・微生物遺伝資源の提供(通年) ・遺伝資源に円滑にアクセス出来る環境整備事業		
国土交通省	・円山川下流域・周辺水田のラムサール湿地登録 (7月)	・地方セミナー(3回)、ワークショップ(2月)の実施 ・都市の生物多様性指標の検討	・緑の基本計画の策定の促進 ・生物共生機能付加の港湾構造物の導入の推進	・生物共生機能付加の港湾構造物の導入の推進	
環境省	・地域生物多様性保全活動支援事業(通年) ・生物多様性国家戦略2012-2020閣議決定(9/28)	・地域連携促進セミナー(12/15北海道、1/19長野、 2/9兵庫)	・地域生物多様性保全活動支援事業(通年)	・アジア国立公園会議(11/14~17仙台)	

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般社団法人 日本経済団体連合会

名称	公益信託経団連自然保護基金を通じた自然保護活動支援
概要・目的	・公益信託経団連自然保護基金による国内外のNGOの自然保護プロジェクトに対する資金的支援。基金の原資は、経団連自然保護協議会が企業や個人に呼びかけて集まった寄付金等によるもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標5、目標9、目標10、目標11、目標12、目標14、目標15、目標18、目標19、目標20
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の自然保護プロジェクトに支援 60件、169百万円 ・平成25年度支援に係る公募を実施 ・現地視察会を実施
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の自然保護プロジェクトに支援 61件、159百万円 ・平成26年度支援に係る公募を実施 ・現地視察会を実施

名称	生物多様性民間参画パートナーシップ
概要・目的	・生物多様性への民間事業者の取組みを促進するため、事業者ならびに経済団体・NGO・研究者・公的機関等事業者の取組みを支援する様々な関係者を交えて、ホームページやメールマガジン等を通じて、情報共有や経験交流を図るもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標4
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者アンケートの実施(8月) ・生物多様性民間参画グローバルプラットフォーム第2回会合に参画(10月) ・アドバイザリーボードの開催(12月) ・第2回会員会合の開催(12月) ・ニュースレターの発行(10回) ・各種イベントに参加(随時)

平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者アンケートの実施(7月) ・生物多様性民間参画グローバルプラットフォーム第3回会合に参画(10月) ・アドバイザリーボードの開催(未定) ・第3回会員会合の開催(未定) ・ニュースレターの発行(11回) ・各種イベントに参加(随時)
---------------------------	---

名称	「経団連生物多様性宣言」の普及と定着
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「経団連生物多様性宣言」は、事業者が具体的な行動に取組み際の道しるべとなり、「行動指針と手引き」は生物多様性の諸課題に関わる際に、各事業者が業種や規模等、経営内容に応じた的確な行動をとるために活用されることを期待。より一層の普及と定着を推進。
該当する 愛知目標(複 数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1、目標4
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・NGOと企業との交流会を開催(5月、3月) ・NGO報告会を開催(4回) ・生物多様性民間参画プラットフォームと連携
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会・シンポジウム「生物多様性保全に向けた企業への期待とその役割」を開催(5月) ・企業報告会・交流会を開催(随時) ・NGO報告会、NGOとの交流会を開催(随時) ・東北復興支援事業を実施(三陸復興国立公園への協力を含む) ・生物多様性民間参画プラットフォームと連携

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：日本商工会議所

名称	容器包装リサイクル制度の申込み受付業務
概要・目的	「容器包装リサイクル法」に基づき、（公財）日本容器包装リサイクル協会からの委託により、容器・包装（ガラスびん、PETボトル、紙製容器包装、プラスチック製容器包装）のリサイクル義務のある事業者からのリサイクルの委託申込の受付を行うとともに、全国に514ある各地商工会議所を通じた全国ネットワークの中で、「容器包装リサイクル制度」に関する普及活動を実施
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標4、目標8
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の514の商工会議所において、容器包装リサイクル制度における下記の業務を実施 <li style="padding-left: 20px;">リサイクルの義務を負う事業者からのリサイクル委託の申込みの受付 <li style="padding-left: 20px;">事業者リストの管理・更新 <li style="padding-left: 20px;">地域の事業者向け説明会・相談会の開催（25箇所の商工会議所） <li style="padding-left: 20px;">商工会議所担当者向け研修会の開催（9月に2回） <li style="padding-left: 20px;">各商工会議所のHPや広報媒体等で制度をPR
平成25年度実施内容等（予定）	同上

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：日本商工会議所

名称	e c o 検定（環境社会検定試験）の実施
概要・目的	・環境に関する幅広い知識をもとに率先して環境問題に取り組む「人づくり」、および環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進を目指し、環境に関する総合的な基礎知識を習得できる検定試験として、東京商工会議所を主管として、全国約250の商工会議所において、e c o 検定の試験を実施
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標19
平成24年度実施内容等	試験日 7月22日、12月16日 試験箇所数 約250箇所（商工会議所） 受験者数 37,886名 合格者数 18,222名 2006年の試験開始以降、約30万人が受験し18万人が合格。
平成25年度実施内容等（予定）	試験日 7月21日、12月15日 試験箇所数 約250箇所（商工会議所）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般社団法人 大日本水産会

名称	マリン・エコラベル・ジャパン
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源の持続的利用や生態系の保全を図るために資源管理活動を積極的に行っている漁業者を認証し、その製品にM E Lラベルを付けるものです。消費者にこのラベルのついている商品を選んで頂くことで、しっかり資源管理をしようとする漁業者を増やすことが狙いです。この制度の普及により、水産業界やそれ以外の業界、市民の方々に生物多様性の保全活動を推進するものです。
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1、目標6
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・持続的漁業(生産段階)認証 大船渡大型さんま漁業(宮城) 猿払小型定置漁業(北海道) 猿払サケ定置漁業(北海道) しらす船びき漁業(愛知) 三厩あぶらつのざめ延縄漁業(青森) 宿毛湾きびなご中型まき網漁業(高知) *累計漁業認証19漁業 ・市民イベント(東京、神奈川、静岡、高知)、シ - フ - ドショー(東京、大阪)、環境に優しいバスツアー - (青森)、FOODEX JAPAN(千葉)、 ・UNDB - J第2回生物多様性 全国ミ - ティングM E L普及プレゼン(神奈川)、港区生物多様性いきもの作戦会議プレゼン ・生産段階認証取得推進に向けたM E L制度・普及説明会の実施(青森、東京) ・北海道、東北、関東、中部、関西、四国、九州の小売店舗でM E L認証水産物の販売実施
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道、関東、中部、関西、四国等の小売店舗で認証水産物の販売・普及推進 ・生産段階認証取得推進に向けたM E L制度・普及説明会の実施 ・流通加工段階認証取得推進に向けたM E L制度・普及説明会の実施 ・認証取得関係者、行政機関等と連携した地域協議会の実施 ・量販店、小売店等M E L普及の働きかけ、店頭販売や市民イベント等を通じた消費者への普及啓蒙活動 ・東京、大阪シ - フ - ドショー等B t o Bイベントへの参加 ・港区等生物多様性に関する活動への参加

国連生物多様性の10年日本委員会
関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：全国漁業協同組合連合会（JF全漁連）

名称	漁業者による沿岸域の環境・生態系保全の取り組み
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・生態系保全対策 生態系保全や水質浄化等の公益的機能を有する藻場・干潟・浅場・ヨシ帯、サンゴ礁等の機能の維持・回復に資するため、漁業者を中心に構成する活動組織が保全活動等を実施 ・漁民の森づくり活動 漁場づくりの一貫として行う植樹活動は、河川流域・沿岸域の浸食防止や土砂崩壊防止、河川・海域環境の改善を通じて生物多様性の確保などのメリットをもたらしている。古くより行われており、主に1990年代から組織的な森づくり活動に発展
該当する愛知目標	・目標6、目標7、目標11等
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・生態系保全対策 藻場、干潟、サンゴ礁、ヨシ帯等の保全活動やモニタリング、普及啓発活動等（全国33道府県、297活動組織） ・漁民の森づくり活動（ ） 植樹・枝打ち・下草刈りなど 平成22年 84,694本、13,892人、全国243ヶ所 平成23年 60,839本、12,844人、全国131ヶ所 平成24年 72,867本、12,817人、全国133ヶ所 （財）海と渚環境美化・油濁対策機構調べ H23,24は震災により岩手県、宮城県、福島県は含まず
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・水産多面的機能発揮支援対策 平成25年度より新たに国や地方自治体の支援を受け、海面や内水面の藻場、干潟、サンゴ礁、ヨシ帯等の保全活動・モニタリングや流域の海岸清掃およびこれら活動にかかる普及啓発活動を実施予定（全国で数百ヶ所程度を想定） ・漁民の森づくり活動 継続的に植樹・枝打ち・下草刈りなどを実施 なお、JF全漁連では平成25年5月17日、熊本県南阿蘇村において、熊本県漁連、県下漁協と連携し、熊本県や地元自治体、全森連および熊本県森林連、地元森林の協力を得て、ヤマザクラ、クヌギ、ケヤキ等合計2,100本（面積1.05ha）の植林を実施予定

名 称	漁業者による自主的な資源管理・漁場保全
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国沿岸の共同漁業権区域は、生物多様性の保全および生態系サービスの持続可能な利用のために効果的な手法で管理される区域として、政府の総合海洋政策本部の場において、海洋保護区の一つとして評価され、位置づけられている ・わが国では、水産資源の保護培養・持続的利用を目的として、公的規制に加え、沿岸域では漁業協同組合（漁協）が主体となって、漁業者による自主的な資源・漁場管理が行われてきた ・自主的な資源・漁場管理の取り組みは古くから行われてきており、そのルールは、漁場・資源を「共同で利用」するという考え方のもと、関係者が皆で話し合っ決めてることを基本とし、これにより資源・漁場の稠密な利用と管理が実現している ・共同漁業権区域においては以下のようなさまざまな取り組みが行われ、水産資源の持続的利用や環境・生態系保全に寄与している ・こうして取り組まれてきたわが国の漁業管理は、米国の研究者など海外からも共同管理の成功例として評価されている <p>（主な自主的取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 休漁、漁獲サイズの規制・小型魚の放流 ・ 産卵場などの禁漁・保護区の設定 ・ 漁網の網目の拡大 ・ 稚魚の種苗放流、 等 <p>また、漁場の環境・生態系の維持・保全を目的に、漁業者や漁業協同組合を中心とした取り組みが多くの沿岸・陸域で行われている</p> <p>（主な自主的取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場、干潟・浅場、サンゴ礁、ヨシ帯等の保全やモニタリング ・ 漁民の森づくり（漁業者による植林活動） 等
該当する愛知目標	・目標6、目標7、目標11等
平成24年度実施内容等	平成23年度から、新たな資源管理制度として、自主的な資源管理や漁場環境の保全を盛り込んだ「資源管理計画」を漁業者が策定し、取り組んでいる
平成25年度実施内容等（予定）	（継続的に取り組み）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：社団法人 日本林業協会

名称	里山林の持続的利用を通じた再生手法に関する調査研究
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、里山林が放置されてきたことから、森林の機能や景観の喪失、植生遷移による森林生態系への影響が問題となっており、里山林を循環利用することを通じて機能豊かなものに再生するため以下のような課題に関する調査を進め、施策に反映させる 生態学から見た里山管理と広葉樹施業 里山林の持続的利用を通じた再生手法と活用方策 里山林資源のエネルギー利用と山村振興方策 里山林の新たな管理主体と今後の方向 等
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標7、目標14、目標15
平成24年度実施内容等	・上記 ~
平成25年度実施内容等(予定)	・上記 及び 取りまとめ

名称	公開講座「森林の除染について」の実施
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災に伴う原子力発電所事故で放出された放射性物質による森林の汚染について、汚染の状況と対策の実施状況、及び健全な森林を取り戻すためにどうあるべきかを考える
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標8

<p>平成 24 年度 実施内容等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記内容について、研究サイド、行政サイドから報告、講習
<p>平成 25 年度 実施内容等 (予定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未定

このほか、当協会会員の林業各団体においては、別添のような活動を実施

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：全国森林組合連合会

名称	森林の適切な保全・管理
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・森林には、災害の防止、地球温暖化防止、生物多様性の保全等様々な公益的機能を有しており、貨幣評価できるものだけでも年間70兆円に及ぶ。森林の適切な保全・管理が必要であり、そのことが生物多様性の保全につながると認識。 ・我が国の森林面積は国土の7割の2,500万haであるが、森林組合員の所有面積は1,100万haで、全森林面積の4割以上を占める。 ・系統においては平成23年度から「国産材の利用拡大と森林・林業の再生運動」を進めており、系統においては森林施業プランナーが主体となって提案型施業集約化施業による間伐等適正な森林の整備、防護柵等鳥獣害対策、国産材の安定供給に努めている。 ・近年、特に問題になっているのは、シカによる植栽木や下層植生の食害、踏みつけによる土砂崩壊、尾瀬沼等で見られる貴重な植物の消失など森林生態系の崩壊であり、生物多様性の保全を図るためにシカの生息状況、被害状況等の把握による防護施設の設置や計画的な個体数管理が必要である。
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標7
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合トップセミナー（8/2-3 東京、ホテル日航東京） ・森林施業プランナー認定制度キックオフミーティング（8/21 東京、木材会館） ・国際協同組合年記念大会（10/25 東京、明治神宮会館）
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合トップセミナー（8/1-2 東京、ホテル日航東京） ・認定森林施業プランナーを対象としたワークショップ（未定）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：全国農業協同組合中央会

名称	全国のJAグループ各団体の取組にかかる情報発信
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全国のJAグループの取組事例情報を収集・発信を通じ、グループ全体の取組意識の啓発と行動を促進 ・具体的には、「環境保全型農業推進コンクール（全国環境保全型農業推進会議）」への参加を中心に、「JA全国青年大会活動実績発表（JA全青協）」や「ふるさと倶楽部（全国農協観光協会）」等の取組で得られた先進取組事例について情報発信している
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標4、目標7
平成24年度実施内容等	<p>【例】</p> <p>第18回環境保全型農業推進コンクール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老蘇地域集落営農連絡協議会（JAグリーン近江と連携）：刈り払いによる畦畔除草作業、ホタル観察会、ブナ放流など ・JA越前たけふ：冬期湛水、コウノトリ保護 <p>【例：平成24年度以前】</p> <p>第57回JA全国青年大会（平成22年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA山形おきたま青年部：ひまわりプロジェクトを中心とした環境保全型農業の取組 <p>ふるさと倶楽部（平成23年度森のワーキングホリデー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA北信州みゆき：黒岩山の里山保全、ギフチョウ・ヒメギフチョウの保護活動
平成25年度実施内容等（予定）	24年度までと同様、情報収集にかかる取組と、得られた情報の発信、グループ内の共有に努める

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：全国農業協同組合連合会

名称	地域における生物多様性保全活動支援
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における生物多様性の保全に資する活動等を支援するため、以下の取り組みを実施 「田んぼの生きもの調査（平成17年度から本格的に開始～）」 生産者と消費者と一緒に水田に接することをつうじて、水田が果たしている環境保全などの多面的機能や農業価値の理解を深耕
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成24年度実施内容等	・45か所にて実施（新規・継続を含む）
平成25年度実施内容等（予定）	・約50か所の主催、参加を予定（新規・継続を含む。平成25年5月時点）

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

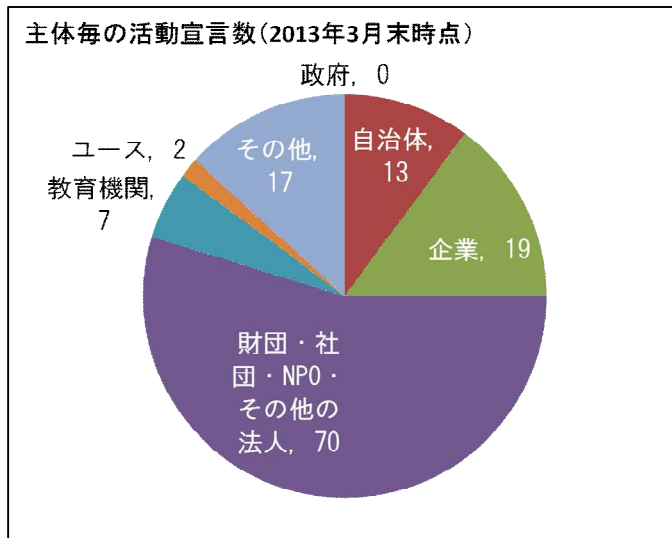
関係団体・関係省庁の取組

団体名：国際自然保護連合日本委員会

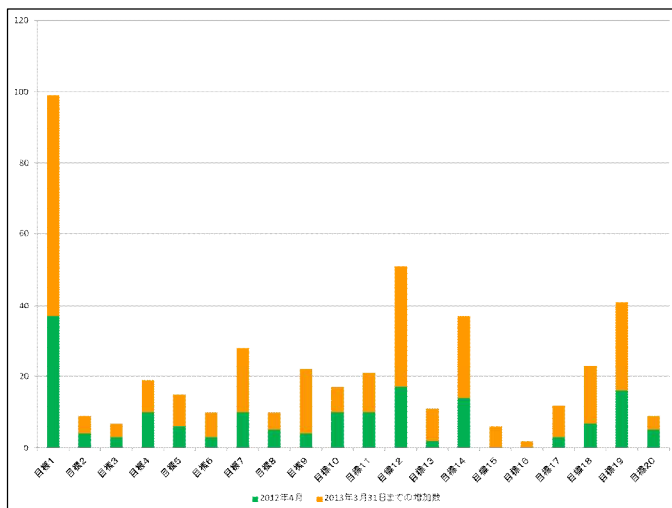
名称	にじゅうまるプロジェクト
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知目標達成に向けた行動を奨励し、見える化（指標化）と行動間の連携を図る目的 ・「愛知目標を知り、自分達の活動とのつながりに気づき、そして、生物多様性のアクションを宣言（にじゅうまる宣言）する。」という参加型キャンペーン。1．登録促進、2．登録事業間連携、3．国際情報収集と内外への発信を実施
該当する愛知目標（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・目標1、目標2、目標3、目標4、目標5、目標6、目標7、目標8、目標9、目標10、目標11、目標12、目標13、目標14、目標15、目標16、目標17、目標18、目標19、目標20
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・登録拡大（詳細は別途） ・CBD-COP11、SBSTTA、IUCN世界自然保護会議等でのサイドイベント実施 ・地域セミナー（四国・高知）、テーマ別ワークショップ（水田目標・行動計画）の開催と、田んぼの生物多様性向上10年プロジェクトの支援（参考資料を添付） ・UNDB-J連携事業の認定の仕組みの構築（UNDB-Jとのパートナーシップ） ・おりがみワークショップの実施 ・大阪自然史フェスティバル、エコプロダクツ2012への出展
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・にじゅうまる便りー季節を感じる暮らしかたの発行（UNDB-J関連事業：My行動宣言5つのアクション） ・「市民が守る保護地域」の特定・登録・保護手法の検討提案（愛知目標11、アジア国立公園会議関連） ・年次大会の開催（2014年2月15日-16日@大阪 i-site なんば） ・おりがみワークショップの実施と、おりがみ協会・学会との連携（UNDB-Jロゴに描かれている生きものの折り方の開発） ・昨年度事業（登録の拡大・展示等への出展）は継続

にじゅうまるプロジェクト登録状況について

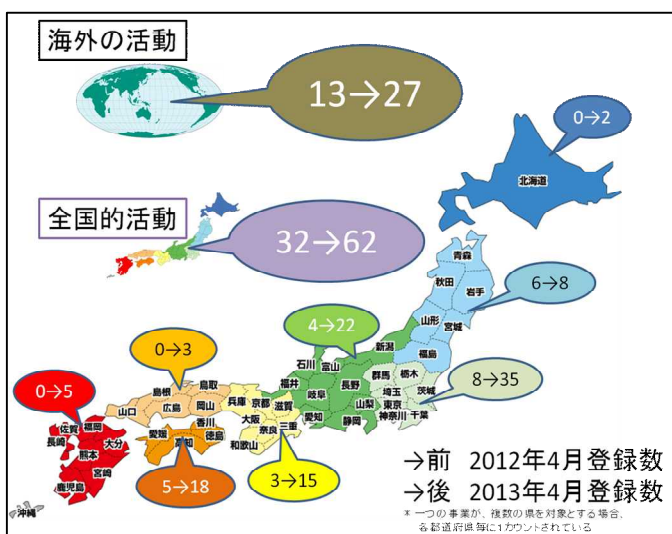
・2012年4月1日段階で32団体50事業から2013年4月段階84団体132事業とおよそ2.5倍に増加しました。



主体毎の活動数でみると、
自治体13事業、
企業19事業、
NPO等70事業、
教育機関7事業、
ユース2事業、
その他(NGOや企業、自治体等で構成される協議会など)17事業 となっています。



目標毎の活動数でみると、
普及啓発・種の保全、生物多様性の知識向上が多く、補助金の改善・ABSなどが少ないことが分かります。



地域別でみると、
それぞれ登録数が伸びていますが、東北・四国・沖縄九州・北海道へのアプロ

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益社団法人 日本植物園協会

名称	植物多様性保全拠点園ネットワーク事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保全活動を積極的に担う植物園を中心に、日本の生物多様性の保全に貢献するため、以下の事業を中心に実施する 絶滅危惧植物の生育特性情報収集（平成23年度～） 希少植物の生育特性や栽培方法等を記録するデータベースを活用し、2015年を目標に日本産絶滅危惧植物種の生育特性情報の総覧を作成する 植物園における保有植物詳細調査（平成25年度から5年ごと） 全国の植物園での絶滅危惧植物種の生息域外保全状況の調査
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標11, 目標12, 目標13
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ : 「希少植物データベース」作成と情報収集。関連する講演会、ワークショップ等の実施
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ : 日本の固有種を中心とした特性情報収集、現地調査 ・ : 約50園の植物園の保有植物詳細調査 、 について、関連するワークショップや講演会、シンポジウムを実施し、市民等と植物園のネットワーク作りや活動協力要請、普及啓発等を行う

名称	絶滅危惧植物 SOS マークによる広報活動
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植物多様性保全に貢献するため、絶滅危惧植物を示すマークを活用して、幅広い市民に向けて希少な植物に対する理解を深める普及活動を行う
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標1
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絶滅危惧植物 SOS マークを決定、植物ラベル等に貼付するシールを作成し、全国の植物園での活用を促した
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き全国の植物園において SOS マークを活用した絶滅危惧植物に関する普及啓発を展開し、活用例や市民と植物園が協働して行った活動例等を取りまとめて公開する

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組



団体名：生物多様性の10年市民ネットワーク

名称	地域のリアリティに向き合い、条約会議とつなぐ
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国際条約会議に地域の声を反映し、地域課題の解決と結び付ける。 ・生物多様性条約の3つの目的を切り離さずにとらえる論理を支持し、さらに強化する
該当する愛知目標(複数回答可)	-
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・311 原発事故が日本の諸地域にもたらした自然的・文化的影響と向き合い、リオ+20 会議、生物多様性条約 COP11 において報告・討論 ・資金動員メカニズムに文化サービスと基盤サービスを組み込む方法論を深化させ、生物多様性条約 COP11 において報告・討論 ・国際 NGO である ILC（先住民・地域コミュニティ）、在来のタネを守る運動との連携を深めた
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・国内諸地域間、NGO 間の連携の強化及び COP12 に向けて韓国の NGO との連携 ・生物多様性ホットスポット評価：生物多様性重点地域の基礎評価とスコアリング ・COP12 準備会合への参加とサイドイベントの開催


国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)




関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般社団法人 CEPA ジャパン

名称	ヨコハマbデイ、ヨコハマbフェスティバル
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市環境創造局との協働により、「もっと身近に、生物多様性。」を実感できるイベント、メディア、広報の仕掛けを展開
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標1、目標4、目標7、目標9、目標14、目標18、目標19、目標20
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> シンボルイベント「ヨコハマbデイ2012」を開催し、横浜市内で活動する団体をトーク&生中継で紹介。これはSkypeを活用し、団体の活動拠点と会場を生中継でつなぐ試みを行い盛況 期間を設けて、FMヨコハマの協力でベルト番組で広報を行い、横浜市内の面的にも広がるフェスティバルを開催し市内各所のイベントを網羅するリーフレットを市内各所で配布して、生物多様性に関する普及啓発のあり方を追求した <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> 横浜市での実績をベースに他地域で展開 1、日比谷図書館での連続セミナー開催 2、豊岡市と協働の可能性を模索中 3、生物多様性協働フォーラムとの協働の可能性を模索中

名称	海と田んぼからのグリーン復興プロジェクト
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北大学大学院生命科学研究課、環境省東北地方事務所、自治体、企業、市民団体など集まって活動する会議体の運営
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 3、目標 4、目標 5、目標 7、目標 8、目標 9、目標 10、目標 12、目標 14、目標 18、目標 19、目標 20
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災の直後から、生物多様性の回復に配慮したグリーン復興を基本理念に、水田の復興、市民モニタリング、浦戸諸島の島おこしなど多様な活動を展開 <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">     </div>
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生態系モニタリングを継続し、大規模かく乱に対する生態系の応答を評価し、様々な地域ごとの復興活動に寄与しつつ、三陸復興国立公園、ロングトレイル、フィールドミュージアム、ESD など政府の施策と歩みを共にし、市民による復興計画作り、企業の事業開発など、多岐にわたる活動を事務局として支える

名称	いきものぐらしポータルサイト
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 七十二候二十四節気の暦の中で、「たべよう」「ふれよう」「つたえよう」「まもろう」「えらぼう」の5つのアクションに基づく様々な事例を紹介する、暮らしから生物多様性を感じるサイト
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標1、目標3、目標4、目標5、目標6、目標7、目標9、目標10、目標12、目標14、目標17、目標18、目標19、目標20
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> 国家戦略2012-2020の市民の役割に記載された、国民運動ツールUNDB-Jの「MY行動宣言5つのアクション」を生物多様性の普及啓発ツールとして活性化し、日本の暦に親しみながら、日常の暮らしから生物多様性を感じる事ができるポータルサイトを立ち上げた 「いきものぐらし」とは、私たちの暮らしに恵みを与え、私たちのいのちを支えてくれる、無数の生きものたちへの感謝を込めてつけたもの。私たちを含めた生きもの同士が共生する持続可能な暮らしのことを「いきものぐらし」と呼んでみたい 
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> 現在、5つアクションの事例はCOP11で紹介したものをアップしているが、すでに収集した事例、今後収集する事例をアップし、日本全国で具体的に5つのアクションに日常で行動できるよう、イベントやツール等の充実をはかりながら展開していく

名称	エコプロダクツ展 2012 自然観察会
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 主催者事業として開催された自然観察会を運営
該当する愛知目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標 1、目標 4、目標 12、目標 14、目標 18、目標 19
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> エコプロ展に来場されて環境意識が高まっているところを、さらにフィールドに導いて、都市公園で生物多様性を実感していただく趣旨で開催 <div data-bbox="411 741 1362 1218" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  自然観察会 ECO-PRODUCTS 2012 </div> <p>自然観察指導員の詳しい解説を聞きながら、都会に息づく生態系を実感する体験型企画を実施しました。今年も会場周辺の公園を歩く「水の広場公園コース」と、渡り鳥なども観察できる「葛西臨海公園コース」(15日のみ)の2コースを用意。参加者からは「普段見過ごしている樹木や生き物の名前、生態を知って興味がわいた」「都会のなかでも素晴らしい自然の営みがあることを実感した」「子どもを誘って街に出たくなった」などの感想が寄せられました。</p> <p>■協力:CEPAジャパン、NACS-J自然観察指導員東京連絡会(NACOT)、五洋建設</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> </div> <p>エコプロダクツ展 2012 報告書より転載</p>
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> エコプロダクツ展 2013 での継続開催の予定 秋の新宿御苑、日比谷公園など都市部での開催を検討

名称	生物多様性と子どもの森キャンペーン実行委員会
概要・目的	・ 生物多様性条約事務局が推進する「グリーンウェイブ」の民間のエンジンとなるべく国内の森林保全に関する普及啓発団体がプラットフォームになった委員会の活動
該当する愛知目標	・ 目標 1、目標 2、目標 4、目標 5、目標 7、目標 11、目標 14、目標 15、目標 17、目標 18、目標 19、目標 20
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコプロダクツ展環境コミュニケーションステージ「森のチカラで、日本を元気に。」を開催。森林と生物多様性、災害復興を流域で考える企画として、「森は海の恋人」の畠山重篤さんをゲストに迎えてトークショーを実施 ・ 生物多様性条約事務局が世界で推進する「グリーンウェイブ」の民間事務局として、キックオフイベントを港区エコプラザで開催。(共催に UNDB-J、港区、経団連自然保護協議会) 行政、企業、団体から活動紹介、テキストやガイドブックの配布を行った <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンウェイブ 2013 の活動を推進 ・ エコプロダクツ展 2013 での成果発表予定 ・ 森の教材「一本の木の物語」を制作中 ・ どんぐりプロジェクトの推進協力など

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：生物多様性わかものネットワーク

名称	生物多様性わかもの会議
概要・目的	全国から生物多様性に関する取り組みを行っている研究者や活動家を集めて、お互いの活動・研究の情報交換を行うことで、個々の活動の促進を狙う
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・3月、8月計2回実施 合計約60人参加 ・2泊3日合宿形式のイベントを開催 ・個々の活動の成果報告・共有を行い、生物多様性に関する多様な問題について見解を深め、将来に向けての個人・世代としての新たな活動、行動を模索した
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・8・9月に2泊3日の合宿形式で開催予定 ・若者の国際会議参加、若者を対象とした生物多様性の普及啓発、生物多様性の取り組みをどう若い世代が引き継ぎ、他世代間連携を行うか、の3テーマを中心に議論を行う予定

名称	生物多様性出前講演会
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性について基礎的な理解や世界的な動向、若者の役割などについて講演する ・大学生の環境サークルなどで講演を行うことで、今度は環境サークルが学内で生物多様性に関する取り組みを進めていくことを狙う
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の環境サークル、環境NPOなどを中心に計13回約600名に生物多様性の基礎知識や愛知ターゲットなどについての講演会を実施

平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年同様、環境サークル、NPO、国際会議等を中心に講演を実施予定
-----------------------------	--

名称	国際会議派遣
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性条約締約国会議を中心とした国際会議に国際自然保護連合日本委員会の支援を受け、若者を派遣。国際会議でも活躍できる若者の育成を目的とする
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 2
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月に韓国で開催された「世界自然保護会議」に 2 名、10 月にインドで開催された「生物多様性条約第 11 回締約国会議」に 1 名の若者を派遣した ・ 生物多様性条約第 11 回締約国会議の中では海外の若者達と協力、連携、政策提言等を実施した
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ SBSTTA に派遣予定 国際会議に向けた準備講演や合宿等も計画中

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：一般財団法人 自然公園財団

名称	自然ふれあい行事の実施
概要・目的	・生物多様性に対する認識・知識の普及を促進を目的として、財団の支部で、動植物の観察会、ガイドウォーク、植樹会などを企画し、実施
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成24年度実施内容等	・全国20カ所の支部で延べ約700回実施、参加者約19,000名
平成25年度実施内容等(予定)	・24年度と同様に実施

名称	野生動物写真コンテスト
概要・目的	・生物多様性への関心と理解の促進、日本の野生動物の生態の記録保存を目的として、誰もが参加できる写真コンテストを実施
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1
平成24年度実施内容等	・応募期間 6月～12月。24年12月作品選考会 応募作品数約1,500点 ・入選作品(36点)は、全国20カ所程度の国立公園ビジターセンター等を巡回展示。また、他団体・機関等の要請に応じ、出版物、パンフレット等に提供
平成25年度実施内容等(予定)	・24年度と同様の内容で実施

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク（仮称）

名称	SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク（仮称）の設立について
概要・目的	・多様な主体の参画・協働による SATOYAMA づくりと国内における SATOYAMA イニシアティブの取組の裾野拡大や質的向上を目的に、SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク（仮称）を設立する。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 5、目標 6、目標 7、目標 14、目標 18 など
平成 24 年度実施内容等	・発起団体による設立準備会合を開催（3/25）
平成 25 年度実施内容等（予定）	<スケジュール（案）> 7月～ ネットワークの参加の呼びかけ 秋頃 ネットワークの設立総会の開催

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取組

団体名：公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS - J)

名称	生物多様性の道プロジェクト ～地域づくりシンポジウム、ふれあい調査講習会～
概要・目的	・市民主体の生物多様性保全型の地域づくりをめざし、「生態系サービスのマップ」づくりとNGOのネットワーク化を促進。生物多様性保全への理解と行動へのきっかけを提供。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標17
平成24年度実施内容等	・「グリーン復興と生物多様性座談会」(5/3・宮城県仙台市) ・『海の生物多様性フォーラム～日本の海の今を考える～』開催(5/19・東京都渋谷区) ・「生態系サービスのマップ」づくりとNGOのネットワーク化(千葉県下総/群馬県みなかみ市/宮崎県綾町) ・「生物多様性を活かした地域づくりの今～身の回りの自然から地域の未来に向けて～」シンポジウムの開催(3/10・横浜市) ・地域戦略学習会・ふれあい調査出前講習会・モニターツアー(宮城県登米市・千葉県印西市・群馬県みなかみ市)
平成25年度実施内容等(予定)	・生物多様性地域戦略ガイドブック事例集作成。人と自然の関係マップづくりと活用事例発表、地域づくりシンポジウム開催(1月) ・中池未見湿地地域協議会参画、千葉県下総モデル地区の保全行動計画づくりと保全活動の推進、宮崎県綾町での地域戦略づくり。

名称	自然観察指導員講習会・研修会
概要・目的	・自然観察会のボランティアリーダーを育成し、地域ごとの自然を見守り、保全活動や地域の環境教育の担い手として活躍できる人材を育成する。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標1

平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察指導員講習会を 5 月から全国 12 カ所で開催し、561 人の指導員を養成。 ・愛知県との共催で「水辺の生きものから里やまを学ぶ」(10/7-8)、大分県自然観察連絡協議会との共催で五感を使う「ネイチュア・フィーリング研修会」(12/8-9 実施)を開催。
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察指導員講習会を 5 月から全国 14 カ所で開催。「地域の自然を理解する研修会」「リスクマネジメント研修会」、「ネイチュア・フィーリング研修会」等のフォローアップ研修会を 6 カ所で開催。

名称	自然しらべ ～身近な生きものから見えてくる生物多様性～
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然しらべ」は、子どもから大人まで誰もが身近な場所で観察できる「生きもの」や「自然環境」を観察してしらべることを通じ、生きもの同士のつながりや自然の大切さに気づき、尊重する心を育むことを目的に 1995 年から開始。全国で一斉にしらべ、地域の自然の状態を知る手がかりとなるデータを集め、日本自然保護協会で解析し、「自然の健康診断」も同時に行う。
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 9、目標 12
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・自然しらべ 2012「貝がらさがし！」。貝がらは、埋め立てや護岸工事などで変化してきた日本の海辺の自然の現状を知る貴重な手がかり。全国から届いた記録は 3,700 件、調査地点は 385 カ所。
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然しらべ 2013「日本のカメさがし！」。日本にはニホンイシガメなど 6 種類の在来のカメが生息。近年、ミシシippiaカミミガメなど外来のカメが増える一方、在来のカメが全国的に減少。

名称	東日本海岸調査
概要・目的	・海岸の植物群落の現状と、人々のこれまでの海とのかかわりや、今後への想いといった「海とのふれあい」の双方を明らかにし、今後の生物多様性保全と持続可能な地域の復興に役立てる。
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 2、目標 3、目標 6、目標 7、目標 11、目標 14
平成 24 年度実施内容等	・東日本海岸調査：青森県から千葉県のパシフィック岸 141 海岸を延べ 268 人の市民の協力のもと調査。(4 月～)。被災地の 10 力所で調査のための講習会とふれあい調査を実施。専門家とも協力し、海岸植物群落調査、植物群落 RDB 調査を実施。 ・調査報告会 + 写真展 + 特別セミナー(岩手・仙台・東京)を開催
平成 25 年度実施内容等(予定)	・宮城県の名取、南三陸、気仙沼における地域ごとの植生調査及びふれあい調査による地域の再発見。 ・海辺と人の暮らしを考えるシンポジウム(東京・仙台) (・東北での自然観察指導員講習会の開催)

国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

関係団体・関係省庁の取り組み


団体名：地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

名称	国連大学との協働による生物多様性の普及啓発
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学との連携・協働により、生物多様性の国際的情報の収集、国内への発信及び GEOC を活用した生物多様性の普及啓発を実施 国際生物多様性の日シンポジウム (平成 20 年度～) 国連大学において、毎年、生物多様性の日シンポジウムを共同開催 GEOC の場を活用した、生物多様性保全、国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J) に関する展示、セミナー等の普及啓発事業を展開
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 2
平成 24 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・国連生物多様性の日記念シンポジウム～豊かな海と生きる～ (5/22) ・国連生物多様性の 10 年展示コーナー (4/1～3/31) ・UNDB-J 推薦「子供向け図書」(愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100 冊～) 展示 (3/12～)
平成 25 年度実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際生物多様性の日シンポジウム「三陸復興国立公園の創設から考える 生態系サービスの強化と持続可能な地域社会の構築」 (5/22) ・「未来へつなぐ、里山・里海」展 - 三陸復興国立公園、世界農業遺産「能登/佐渡」 - (5/15～6/29) ・UNDB-J 推薦「子供向け図書」(愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる 100 冊～) 展示 (通年)

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：生物多様性自治体ネットワーク

名称	生物多様性ミニフォーラム
概要・目的	・生物多様性の保全や持続可能な利用に関する自治体の取組及び成果に関する情報共有と発信
該当する愛知目標	目標1、目標2、目標3、目標4、目標5、目標7、目標8、目標9、目標10、目標11、目標12、目標13、目標14、目標15、目標18、目標19、目標20
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年11月3日（土・祝） （横浜にて開催） 対象：自治体ネットワーク会員自治体、一般市民（合計100名程度） 基調講演（東京都市大学環境情報学部 涌井史郎教授） 自治体ネットワーク会員自治体の取組事例報告 （佐渡市、愛知県、横浜市） 自治体ネットワーク総会と合わせて開催 
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年11月9日（土）（豊岡市にて開催） 対象：自治体ネットワーク会員自治体、一般市民 講演 生物多様性てい談 自治体ネットワーク総会と合わせて開催

名称	5月22日「国際生物多様性の日」の構成自治体による一斉PR
概要・目的	・生物多様性の浸透、主流化を一層推進するため、「国際生物多様性の日」に合わせ、構成自治体による一斉PR、情報発信
該当する愛知目標	目標1、目標2、目標3、目標4、目標5、目標7、目標8、目標9、目標10、目標11、目標12、目標13、目標14、目標15、目標18、目標19、目標20
平成24年度	
平成25年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際生物多様性の日」の周知及び、構成自治体の生物多様性の取組について 同日記者発表（5月15日） 自治体ネットワーク及び各自治体のホームページで情報発信 ・「国際生物多様性の日」周知ポスターを、同時期に各自治体庁舎等で掲示

	・自治体ネットワークロゴマーク作成、活用（5月～）
--	---------------------------

名称	テーブルセミナー～自治体の生物多様性担当者研究会
概要・目的	・生物多様性の取組状況や課題などの共有を目的とし、構成自治体の生物多様性実務者による研究会を専門家を交え開催
該当する愛知目標	目標 1、目標 2、目標 3、目標 4、目標 5、目標 7、目標 8、目標 9、目標 10、目標 11、目標 12、目標 13、目標 14、目標 15、目標 18、目標 19、目標 20
平成 24 年度	
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	・テーブルセミナーの開催（8月末予定） テーマ：「生物多様性地域戦略の有効的な運用について」(仮) 各自治体が生物多様性地域戦略を制定、改定に当たっての実務上の課題や、有効的な運用についてディスカッション 自治体ネットワーク幹事会と合わせて開催

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：外務省

名称	名古屋議定書第19条及び第20条の実施に関する非公式会合
概要・目的	・ 遺伝資源へのアクセスとその利用から生じる利益の配分（ABS）に係る国際的枠組みを効果的かつ早期に機能させるため、名古屋議定書で、遺伝資源の提供国・利用国双方が導入すべき具体的な措置について、意見交換、及び議論を行い、国際的理解を醸成することを目的とする。
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標16
平成24年度実施内容等	・ 3月25日、26日に、名古屋議定書第19条、及び20条の規定に関して議論を行う非公式会合を開催した。 ・ 右会合では、議定書が定める、遺伝資源の取引における契約のひな型（第19条）取得の機会の提供や利益配分に関する行動規範などの作成（第20条）につき、各国、関係業界などにおけるこれまでの取組内容を整理・分析した資料を基に、締約国による取組を支援するための方策について意見交換、議論が行われた。
平成25年度実施内容等（予定）	・ 未定

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取り組み

団体名：文部科学省

名称	社会教育における地域の教育力強化プロジェクト
概要・目的	・環境教育を含む5つの重要なテーマから、行政だけでなく地域やNPO等の民間が主体となって課題解決に取り組むべきものを指定して、地域の課題解決につながる仕組みづくりのための実証的共同研究を行い、地域が課題を解決する力の強化を図る
該当する愛知目標(複数回答可)	-
平成24年度実施内容等	・採択案件23件のうち、環境教育を主たる内容とする事業2件を実施
平成25年度実施内容等(予定)	・事業年度終了のため実施予定なし

名称	公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム
概要・目的	・環境保全などの地域における様々な現代的課題に対し、地域に蓄積したソーシャル・キャピタル(社会関係資本)である公民館等が、関係諸機関と連携・協働して実施する先進的な取組を支援するとともに、それらを全国に広く周知することにより、全国的な課題解決へとつなげる
該当する愛知目標(複数回答可)	-
平成24年度実施内容等	・平成25年度新規事業のため実施内容なし
平成25年度実施内容等(予定)	・環境教育を主たる内容とする事業を数件採択予定(平成25年5月時点)

名称	学校における環境教育の取組について
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育の内容が充実された新しい学習指導要領の趣旨等を踏まえ、学校における環境教育の推進のため、「環境教育の実践普及」を実施
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1
平成 24 年度実施内容等	<p>「環境教育の実践普及」により、以下の事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のための地球学習観測プログラム(グローブ)への参加・環境測定の実施(参加校の指定・支援) ・ 環境教育・環境学習指導者養成講座(環境教育リーダー研修)(平成 25 年 1 月、2 月開催) ・ 環境教育に関する実践発表会(環境教育フェア)(平成 25 年 2 月開催)
平成 25 年度実施内容等(予定)	<p>「環境教育の実践普及」により、以下の事業を実施予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のための地球学習観測プログラム(グローブ)への参加・環境測定の実施(参加校の指定・支援) ・ 環境教育・環境学習指導者養成講座(環境教育リーダー研修) ・ 環境教育に関する実践発表会(環境教育フェア)

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：農林水産省

名称	農林水産省における生物多様性に関する対策の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林水産省生物多様性戦略、及び生物多様性国家戦略 2012 - 2020 に基づき、生物多様性をより重視した農林水産業の推進、及び農林水産業の生物多様性へ貢献する取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性を重視した農林水産業への理解推進 田園地域・里地里山における保全 森林における保全 里海・海洋における保全 遺伝資源の保全と持続可能な利用の推進 生物多様性評価手法の開発
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 1、目標 3、目標 5、目標 6、目標 7 目標 8、目標 1 1、目標 1 2、目標 1 4、目標 1 5
平成 24 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 4 年度は、農林水産省の事業として ~ の取組を実施
平成 25 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 5 年度は、農林水産省の事業として ~ の取組を実施

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：経済産業省

名称	経済産業分野における生物多様性関連の取組み
概要・目的	・生物多様性条約に掲げられている3つの目標のうち「遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分」に対応するため、バイオ産業界が遺伝資源に円滑にアクセスできる環境の整備等
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標16
平成24年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省では、遺伝資源に円滑にアクセスできる環境を整備するため、遺伝資源へのアクセスに係る手引き作成、諸外国の遺伝資源政策に関する情報の発信、説明会の開催及び相談窓口の設置等を実施。 ・(独)製品評価技術基盤機構では、アジア諸国の政府機関との間で遺伝資源に係る覚書等を締結し、共同探索事業等を通じて採取された海外由来の微生物遺伝資源について、我が国産業界が円滑に活用できるよう枠組みを構築し、提供を実施。
平成25年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物遺伝資源の提供 ・遺伝資源に円滑にアクセスできる環境整備 等

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）

関係団体・関係省庁の取組

団体名：国土交通省

名称	国土交通分野における生物多様性保全の取組普及関連の取組み
概要・目的	・生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）で採択された「愛知目標」や生物多様性保全活動促進法に対応し、社会資本整備分野における取組の調査を行うとともに、その普及のためのパンフレット作成や地方セミナーの実施
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1、目標2、目標3
平成24年度実施内容等	・地方セミナーの実施 ・ワークショップの実施
平成25年度実施内容等（予定）	・ポータルサイト等を通じた普及の継続

名称	都市における緑地の保全、緑化の推進
概要・目的	・都市における緑地によるエコロジカルネットワークの形成の推進の観点からは、地方自治体への支援等行政の取組と併せて、今後は民間企業、地域住民、NPO等との連携も重要 ・例えば、民間企業のCSRの観点からの自社ビルの緑地化、地域住民と連携した公園内の樹林の管理等で連携
該当する愛知目標（複数回答可）	・目標1、目標2、目標3

平成 24 年度 実施内容等	・ 地方公共団体において活用可能な都市の生物多様性指標の検討
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	・ 地方公共団体における都市の生物多様性指標の充実に向けた検討

名称	河川における湿地整備～円山川のコウノトリ復帰事例～
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省・関係省庁・県・市・地域住民・NPO 等が円山川下流域の湿地、周辺水田において、コウノトリの生息地の面的広がり確保で連携 (連携内容) ・ 国土交通省は河川における治水対策に併せた湿地の整備 (約 5 割増) ・ 地域住民・NPO 等は無農薬農法による「コウノトリ」ブランド米の栽培・販売等、コウノトリをシンボルとした地域づくり・地域振興 <p>現在 61 羽が野外で生息、平成 24 年 7 月 ラムサール湿地登録「円山川下流域・周辺水田」</p>
該当する 愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1、目標 2、目標 3
平成 24 年度 実施内容等	・ 河川における治水対策に併せた湿地の整備
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	・ 河川における治水対策に併せた湿地の整備

名称	生物共生型護岸
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽護岸の更新に併せた「生物共生機能」の付加が課題 ・現在、各地で、市民・NPOと連携した「自然体験活動」を通じて生息生物のモニタリングを実施中。今後、これらの効果を検証した上で今後の護岸設計等へ反映、市民が海にふれあえる環境を創出
該当する愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1、目標 2、目標 3
平成 24 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・各地で、自然体験活動を通じて、環境への理解を深めるとともに、研究機関等と連携してモニタリングを実施し、生物共生型護岸の環境改善効果のデータを蓄積
平成 25 年度実施内容等(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、自然体験活動・モニタリングを実施するとともに、蓄積されたデータを活用し、「生物共生護岸」の整備ガイドラインを作成

国連生物多様性の10年日本委員会
関係団体・関係省庁の取組

団体名：環境省

名称	生物多様性国家戦略の改定
概要・目的	・生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において採択された愛知目標の達成に向けたわが国のロードマップを示すとともに、東日本大震災の発生等を踏まえた今後の自然共生社会のあり方を示すことを目的として、生物多様性国家戦略を改定
該当する愛知目標(複数回答可)	・全て
平成24年度実施内容等	・平成24年9月に「生物多様性国家戦略2011-2020」を閣議決定 ・同戦略に沿って生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進
平成25年度実施内容等(予定)	・「生物多様性国家戦略2011-2020」に沿って取組を引き続き推進 ・生物多様性条約の履行状況に関する第5回国別報告書の平成26年3月末までの提出にあわせ、生物多様性国家戦略の実施状況について総合的な点検を実施

名称	名古屋議定書に関する取組
概要・目的	・生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された「遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する名古屋議定書」について、「可能な限り早期に締結し、遅くとも2015年までに国内措置を実施すること」を目指し、国内措置を検討
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標16
平成24年度実施内容等	・関係する産業界や学術分野の有識者等により構成される「名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会」を開催し、我が国にふさわしい国内措置のあり方を検討 ・諸外国の動向の情報収集及び整理 ・国内企業や研究者へのヒアリングやアンケートによる情報収集 ・COP11において、条約事務局・EUと各国の情報共有を目的としたサイドイベントを共催し、検討会の検討状況を発表

平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「名古屋議定書に係る国内措置のあり方検討会」を開催し、報告書を取りまとめる ・関係省庁連絡会議の下、議定書の早期締結を目指し、日本にふさわしい国内措置の検討を進める ・諸外国の動向の情報収集及び整理 ・国内企業や研究者へのヒアリングによる情報収集 ・関係産業界及び学術研究分野との国内措置案に関する意見交換のための地方説明会の開催 <p>地方説明会の開催等、ABS に関する普及啓発について、今後 UNDB-J にご協力を依頼したい。</p>
---------------------------	--

名称	生物多様性の地域連携促進
概要・目的	・生物多様性地域連携促進法（平成 23 年 10 月施行）の活用による活動計画の策定、協議会の組織化、支援センターの設置等を促進するため、セミナー開催等を実施
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標 1、目標 17
平成 24 年度 実施内容等	・全国 3 カ所（北海道・長野県・兵庫県）においてセミナー開催 ・HP、パンフレット等広報による情報発信
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	・各地域の活動に関する情報収集を行い、HP 等で情報発信

名称	地域における生物多様性保全活動支援
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における生物多様性の保全に資する活動等を支援するため、以下の事業を実施 <p>生物多様性保全推進支援事業（平成 20 年度～） 地方公共団体、NPO、地域の活動団体等からなる「地域生物多様性協議会」における先進的・効果的な活動等に対して、必要な経費の一部を交付</p> <p>地域生物多様性保全活動支援事業（平成 22 年度～） 地域における生物多様性の保全に関する法律に基づく法定計画等の策定および先進的・効果的な実証事業を、委託事業として支援</p>

該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標17
平成24年度 実施内容等	・ は18事業を実施(継続事業を含む) ・ は39事業を実施(同上)
平成25年度 実施内容等 (予定)	・ は23事業を実施(継続事業を含む。平成25年5月時点) ・ は31事業を実施(同上)

名称	生物多様性の経済価値評価
概要・目的	・国内の様々な主体が生物多様性や生態系サービスの重要性を認識し、自らの意思決定や行動に反映していくことを目的に、生物多様性の経済的な価値評価の試行とその普及を推進
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標2、目標14
平成24年度 実施内容等	・生物多様性の経済的価値の評価を試行(奄美大島の国立公園指定及び全国的なシカ対策の実施) ・生物多様性の経済的価値の評価に関するウェブサイトを作成
平成25年度 実施内容等 (予定)	・引き続き、自然保護地域や自然環境保全政策等を対象とした生物多様性の経済価値評価を実施 ・生物多様性の経済価値評価に関する各種情報を収集、発信

名称	経済社会における生物多様性の保全等の促進
概要・目的	・経済社会における生物多様性の保全及び持続可能な利用の推進を図るため、必要な情報収集・発信等を実施
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標1、目標4

平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者による生物多様性保全等の取組状況に関するアンケート調査と事例募集を実施 ・生物多様性民間参画に関する国際的議論・取組に関する情報収集 ・生物多様性民間参画に関するウェブサイトを作成 ・生物多様性民間参画パートナーシップ・アドバイザリーボードの開催に協力
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度に収集した情報を活用した地域別・業種別取組事例集の作成、ウェブサイトへの掲載 ・生物多様性民間参画パートナーシップ・アドバイザリーボードの開催に協力

名称	自然再生事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・失われた自然を積極的に再生することにより、政府が取り組むべき重要課題である「自然と共生する社会の実現」を生態系の観点から着実に推進
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1 5
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・湿原の再生やサンゴの再生など行う自然再生事業を、専門家、地域住民、NPO等の多様な主体の参画を得つつ、全国の国立公園内の7地区で実施
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・湿原の再生やサンゴの再生など行う自然再生事業を、専門家、地域住民、NPO等の多様な主体の参画を得つつ、全国の国立公園内の7地区で実施

名称	里地里山保全活用行動計画の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・里地里山に関わる様々な主体に対し、里地里山の重要性、里地里山の保全活用の理念、方向性、取組の基本方針及びその進め方を提示するとともに、国が実施する保全活用施策を具体的に示すことにより、里地里山の意義について国民の理解を促進し、多様な主体による保全活用の取組が全国各地で国民的運動として展開されるために、以下の事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> 里地里山保全活用行動推進事業 里地里山保全活用を促進するために有効な情報発信・技術支援及び保全活用促進方策について検討

該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標7、目標18
平成24年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な取組事例及び団体への参加促進情報をホームページで発信 ・保全活動を効率的かつ持続可能な取組とするための技術研修会を開催(全国5ヶ所) ・多様な主体の参加方策を検討(指針の作成) ・自然資源の利活用方策を検討(野生生物の利活用方策) ・典型的里地里山の選定方策及び保全活用の推進効果を検討 ・草木質系バイオマス利活用技術開発を検討
平成25年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴的な取組事例及び団体への参加促進情報をホームページで発信 ・保全活動を効率的かつ持続可能な取組とするための技術研修会を開催(全国5ヶ所) ・多様な主体の参加方策を検討(指針の試行的運用) ・関係主体との有機的な連携による効果的取組の促進 ・草木質系バイオマス利活用技術開発を検討

名称	世界自然遺産登録への取組及び登録地域の自然環境保全
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の自然遺産候補地が世界遺産登録されるよう取組を進め、世界的に優れた自然環境の価値を保全
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標11
平成24年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の世界自然遺産地域(屋久島、白神山地、知床)について、地域関係者の意見と科学的な知見を管理に反映させた保全管理を推進 ・平成23年6月の第35回世界遺産委員会における審議を経て世界遺産一覧表へ記載された小笠原諸島については、同時に示された勧告等を踏まえ、科学的知見に基づき策定した管理計画に沿って、外来種対策の推進など保全管理を推進 ・奄美・琉球について、政府として、平成25年1月に、推薦の前提となる世界遺産暫定一覧表に記載することを決定 ・平成24年1月に文化庁及び林野庁と共同で世界文化遺産推薦書を提出した富士山について平成24年8-9月に行われた世界遺産委員会の諮問機関である国際記念物遺跡会議の専門家による現地調査等へ対応するとともに、適切な保全管理の実施や遺産に係る普及

	啓発を推進
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の世界自然遺産地域（屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島）について、管理体制と保全施策を充実、適切な保全管理を推進 ・富士山世界文化遺産登録に向け、保全管理の充実、普及啓発等の取組を推進 ・奄美・琉球について、できるだけ早期の世界自然遺産登録を目指して地元の関係者との調整等を推進

名称	海洋生物多様性の保全の推進
概要・目的	海洋生物多様性保全戦略（平成 23 年 3 月 環境省）に基づき、海洋生物多様性の効果的な保全を図るため、生物多様性の保全上重要度の高い海域（重要海域）の抽出にむけた検討を行う。
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・目標 1 1
平成 24 年度 実施内容等	<p>海洋生物多様性保全戦略に基づき、下記について実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要海域の抽出について検討した。平成 23 年度より 3 ヶ年の予定で検討を行っており、平成 24 年度は重要海域の基準に対応する情報収集と重要海域図の案を作成。 ・国連生物多様性の日に海をテーマとしたシンポジウムを主催。
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	・重要海域の抽出を完了し、海洋保護区設定への活用方法を検討する。

名称	サンゴ礁生態系の保全の推進
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生態系保全行動計画（平成 22 年 4 月 環境省）に基づき、サンゴ礁生態系の保全及び持続可能な利用を促進し、地域社会の持続的な発展を図ることを目的に、各種取組を行う。 ・国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略 2010 の取組を進める。
該当する 愛知目標(複 数回答可)	・目標 1 0

平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁生態系保全行動計画に基づき、下記について実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・普及啓発 ・各種調査 ・海域公園の拡大、国立公園内における自然再生事業 ・サンゴ礁生態系保全行動計画の実施状況点検 等 ・ICRI 東アジア地域サンゴ礁保護区ネットワーク戦略 2010 の取組推進のため、韓国において東アジア地域の各国フォーカルポイントやサンゴ礁研究者とワークショップを開催。
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、サンゴ礁生態系保全行動計画に基づく取組を推進。 ・シンガポールにおいて ICRI 東アジア地域ワークショップを開催。

名称	「全国自然いきもの巡り」スタンプラリー
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの国民が自然とふれあう機会を増やすとともに、生物多様性の重要性についての理解を深めることを目的として、全国の国立公園等に設置されたビジターセンター等を巡るスタンプラリーを実施
該当する 愛知目標(複 数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 1
平成 24 年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの国民がビジターセンター等を訪問し施設展示を見学したり、自然体験プログラムへ参加することを促進するために、企業等と連携した広報活動、ホームページによる情報提供等、各種の広報活動を実施
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度をもって終了

名称	国立公園等シカ管理対策事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園や国指定鳥獣保護区のうちシカによる自然植生の食害が著しく高山植物群落の消失や自然林への悪影響が生じている箇所において、シカの生態調査、捕獲手法の検討等を実施し、生態系維持回復事業計画の策定と当該計画に基づく予防的・順応的な対策等に基づきシカによる生態系への被害を軽減

該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標5、目標7、目標12
平成24年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> シカによる被害状況が著しい国立公園及び国指定鳥獣保護区において、被害状況の段階に即して以下の事業を実施。事業実施箇所は10地域 シカの移動経路や越冬地の把握、生息密度指標の把握に資する生息状況調査等の実施 保護管理に向けた合意形成の枠組み構築を目的とした地域協議会の運営 生態系維持回復事業計画の策定 植生被害状況及びシカ生息密度・移動経路の分析による地形・実施体制に即した効果的な捕獲手法の検討 シカの試験捕獲実施
平成25年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> シカによる被害状況が著しい国立公園及び国指定鳥獣保護区において、被害状況の段階に即して事業を実施。事業内容は平成24年度と同様。事業実施箇所は14地域

名称	第1回アジア国立公園会議の開催
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年11月に、アジア地域として国立公園等の保護地域関係者が集まる初めての会議である「アジア国立公園会議」を開催し、愛知目標達成、生物多様性条約保護地域作業計画の実施に向けて、アジア各国が協力して取り組むためのパートナーシップの構築に向けた検討等を進める
該当する 愛知目標(複数回答可)	・目標11
平成24年度 実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> 関係省庁、地方公共団体、NGO等の連絡調整を目的とした「アジア国立公園会議実行委員会」、会議の内容等について有識者からの助言を得るための「アジア国立公園会議国内準備委員会」等を開催し「アジア国立公園会議」の開催に向けて準備を進めた
平成25年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年11月13日から17日にかけて、仙台市において、「第1回アジア国立公園会議」を開催し、アジアにおける保護地域の理念を定めた「アジア保護地域憲章」を策定するとともに、アジア地域における保護地域に関する協力の枠組みとして「アジア保護地域パートナーシップ」についての検討を進める

名称	国立・国定公園総点検事業
概要・目的	・国立・国定公園を取り巻く自然環境や社会環境、風景評価の多様化等の変化を踏まえ、生態系及び地形地質の観点から重要地域を選定し、国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張に向けた取組を推進
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 1 1
平成 24 年度実施内容等	・平成 22 年度に新規指定又は大規模拡張の対象となりうる候補地 18 箇所を選定したことを踏まえ、陸中海岸国立公園の区域を拡張して三陸復興国立公園として指定することが適当であると中央環境審議会から答申を受けた(指定に係る官報告示は平成 25 年 5 月 24 日を予定。)
平成 25 年度実施内容等(予定)	・慶良間諸島国立公園の新規指定を初め、国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張に向けた取組を推進

名称	海域の国立・国定公園適正管理強化事業
概要・目的	・国立・国定公園の海域で、干潟、藻場、サンゴ礁等優れた海中・海上景観を有する海域を海域公園地区に指定するとともに、オニヒトデ等の食害生物の駆除や利用ルールの策定等保全管理を強化
該当する愛知目標(複数回答可)	・目標 1 1
平成 24 年度実施内容等	・海域を有する各国立公園において、海域公園地区指定に向けた海域資源や生物の調査を実施するとともに、オニヒトデの駆除、海岸漂着ゴミの清掃、サンゴやウミガメ等の保全対象の調査モニタリング、利用者間のあつれき解消に向けた調査を実施
平成 25 年度実施内容等(予定)	・平成 24 年度実施内容を継続


名称	ツシマヤマネコ保護増殖事業
概要・目的	・ ツシマヤマネコの絶滅を回避するため、生息環境の維持改善や、飼育下繁殖個体の再導入などの保護増殖事業を実施するもの
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 2
平成 24 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種モニタリング調査、域内での生息環境改善や地域づくりに関連する取組を継続的に実施 ・ H22 年度から実施している全島的な生息状況調査の結果を解析、とりまとめ ・ 生息域外保全（飼育下繁殖）について（社）日本動物園水族館協会及び飼育協力動物園（合計 9 園）とともに、繁殖技術の共有・改良のための取組を実施 ・ 対馬のうち個体群の脆弱な下島での野生復帰の技術確立を行う野生順化関連施設の整備を開始し、拠点施設が完成
平成 25 年度実施内容等（予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全島的な生息状況調査の結果を公表 ・ 日動水との連携を強化し、引き続き飼育下繁殖技術を検討 ・ 野生順化関連施設について、25.4 月に厳原事務室を開所し、保護官 1 名を新規配置。引き続き順化関連 6 ケージの整備に着手（25 年度中に完成予定） ・ 下島での野生復帰の技術確立に向けた実施計画を検討 ・ 域外保全に関する対馬島内での普及啓発を強化

名称	トキ保護増殖事業
概要・目的	・ 野生絶滅したトキの回復を図るため、飼育下繁殖個体の再導入や生息環境の整備などの保護増殖事業を実施するもの。
該当する愛知目標(複数回答可)	・ 目標 1 2
平成 24 年度実施内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡トキ保護センターを中心に飼育下個体群の増殖を行った。 ・ 野生復帰のため佐渡において放鳥を 2 回行い、放鳥トキのモニタリングを行った。 ・ 生息環境整備に関する普及啓発を行った。 ・ 野生復帰のロードマップを策定した。

平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐渡トキ保護センターを中心に飼育下個体群の増殖を行う。 ・ 野生復帰のため佐渡において春秋の放鳥を計画的に行い、放鳥トキのモニタリングを行う。 ・ 生息環境整備に関する普及啓発を行う。 ・ 遺伝的多様性の確保のため、中国から新たなトキを受け入れ予定。
-----------------------------	--

名称	鳥獣保護管理強化事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣の食害による生態系被害や農林水産業被害等が深刻な問題となっていることから、生態系等への鳥獣被害対策に係る担い手の確保、地域ぐるみでの捕獲の取組、新たな捕獲手法や体制の整備等、総合的な鳥獣保護管理を抜本的に強化
該当する 愛知目標(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標 5、目標 7、目標 1 2
平成 24 年度 実施内容等	<p>以下のような事業の実施により、鳥獣の保護管理を充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狩猟免許の取得へ向けたセミナーの開催 (全国 8 箇所) ・ 地域ぐるみでの捕獲促進を目的としたモデル事業 (全国 13 箇所) ・ 鳥獣保護管理に係る専門的知見・技術を有する人材の登録事業 ・ 行政担当職員・狩猟者等を対象とした鳥獣被害対策及び捕獲技術等に係る研修会 (計 14 回開催) ・ 都道府県における特定鳥獣保護管理計画の作成や保護管理のより効果的な実施のため、イノシシ、シカ等の特定鳥獣 5 種について保護管理検討会を設置し、検討を開始 等
平成 25 年度 実施内容等 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣保護管理の充実・強化のため、平成 24 年度の事業を引き続き実施

名称	沖縄県北部地域におけるマングース防除事業
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界自然遺産への登録を目指しており、希少な野生生物の生息地である沖縄県北部地域 (やんばる) において、ヤンバルクイナ等の希少な動物を捕食しているマングースの根絶に向け、平成 13 年度より環境省と沖縄県が事業区域を分担し、連携して、マングースの防除を実施 (沖縄県は平成 12 年度より開始)。事業の目的は深刻な影響を受けた貴重な在来生態系の回復

<p>該当する 愛知目標(複数回答可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 9
<p>平成 24 年度 実施内容等</p>	<p>環境省は希少種生息核心地域(やんばる北部地域)において、沖縄県は比較的マングースが高密度に生息するやんばる南部地域において、以下の事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マングース等の捕獲 ・効果的な捕獲方法の検討 ・希少種の回復状況の把握(沖縄県実施) ・現在のマングース北上防止柵(SFライン)の南に第二の北上防止柵を整備(沖縄県実施(平成 23, 24 年度)) 
<p>平成 25 年度 実施内容等 (予定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、環境省と沖縄県で連携協力して事業を実施 ・地域的な根絶を評価するためのモニタリングを開始